

校訓（建学の精神） ・きたえる ・たかめる ・思いやる 学校教育目標 「自らのよさを感じ、進んで考え行動する作見っ子の育成」 スローガン（願い） わかった、できた、今日も楽しかった。明日も元気に笑顔で学校へ。 めざす児童像 ・進んで学ぶ子 ・進んで人と関わる子	具体的取組 (1) 学級力を高め、子どもたちの絆が深まり、安心して過ごせる学級・学校づくり (2) 授業が分かり、学ぶ楽しさを感じ、確かな学力を身につける (3) 豊かな心と健やかな体を育てる (4) 組織的に運営され、家庭や地域との連携を深める学校
---	---

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果(中間)	判定結果(最終)	次年度への対策
①教育課程・学習指導	国語科を中心に学力の向上を図る。	・児童にとって付けたい力につながる言語活動を設定し、主体的に学ぶ授業づくりについて研修を深め、授業力を高める。 ・単元(授業)構想シートを活用し、指導事項とねらいを明確にした授業実践に取り組む。	研究主任 教務主任	主体的に話し合いながら学習しようとする態度が身に付いている。児童にとって付けたい力につながる言語活動を設定し、さらに指導事項とねらいを明確にした授業づくりに取り組む。	【成果指標】 指導事項やねらいを明確にして、付けたい力に応じた言語活動を設定している。	授業において指導事項とねらいを明確にしているという教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	・付けたい力を意識した教師モデルの作成により、指導事項やねらいを明確にした授業を行うことができた。 ・研究授業で、具体的なねらい達成の姿を明確にして授業を見ることで、その後の指導や授業改善に生かすことができた。 ・付けたい力に応じた対話的な学びの充実や、児童が学習を自ら調整していく学習形態の工夫を考えたい。
②生徒指導	積極的な生徒指導を行い、いじめの未然防止に努める。	生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進することによって、いじめの未然防止に生かせるようにする。	生徒指導 主事	昨年度取り組んだチェックシートの結果や学校の実態に応じて、各月で重点事項を定め、生徒指導の3機能を生かした授業づくりを推進し、児童との信頼関係を築く必要がある。	【成果指標】 生徒指導の3機能を意識して授業づくりを行っている。	生徒指導の3機能を意識しているという教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	昨年度より生徒指導の3機能を生かした授業づくりについて行ってきた取り組みが浸透し、普段行っている何気ないことが3機能を生かした授業づくりに繋がることを周知することができた。次年度は、いじめに限らず不登校児童の未然防止の取り組みについて重点を絞って取り組んでいきたい。
	児童の自治能力の向上をめざす。	クラス会議等を通じて、児童個人がクラスを良いものにしようとする意識を高め、安心して自分の考えを話し合えるクラスづくりができるようにする。また、委員会活動等を通して学校生活をより良いものにしようとする意識を高める	生徒指導 主事	落ち着いて学習に取り組む、友達に関わる姿が見られるが、クラスや学校全体に係わることは、やや意識が低い傾向があるので、多くの児童の当事者意識を高める必要がある。	【成果指標】 委員会活動やクラス会議等において、考えを持ち発言しようとする姿が見られる。	「クラスや委員会の話し合いで、自分の考えを話すことができた」という児童が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1,2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	B	児童の発言機会を意図的に作っていくことができたが学年による差が大きく、特に高学年においては低くなる傾向がある。自ら進んでより話しやすくなるように少人数集団から始め、児童がより話しやすい雰囲気づくりに努めていきたい。
③キャリア教育	自分の良さに気づき、最後までやり遂げる児童の育成を図る。	行事を中心に日常生活の中で自分の良さに気づき、最後までやり遂げるための指導を行う。また、キャリアパスポートを活用し、1年間のめあてと振り返りを行う。	キャリア 教育担当	自分の良さに気づいていない児童が多い。自分の発言や判断した行動に自信が持てず、最後までやり遂げる児童が少ないので行事を中心に活躍する機会を与える必要がある。	【成果指標】 児童は自分に良さがあると感じている。	「自分には良いところがある」という児童が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1,2学期末に児童にアンケートを実施する。	B	B	・授業いいね作見っ子ウィークやいいね作見っ子週間など、授業を通して異学年の良さやクラスの友だちの良さを見つける活動を継続して行うことができた。 ・学年が上がるにつれ、否定的な回答が多い。そのため、次年度、キャリアパスポートを学期の途中に見る時間をつくるなど、自分の成長や頑張りを確認できるような場を設定していく。
④保健管理	感染症予防を徹底し、健康的で清潔な基本的生活習慣の確立をめざす。	・感染症予防のため、手洗い、正しいマスクの着用、換気の指導を行う。 ・日頃から抵抗力を高めるために基本的生活習慣の確立を目指し、「すこやかカード」を活用する。	保健主事 養護教諭	マスクの着用・手洗いなど感染症予防に対する行動はできているが、新型コロナウイルス感染症収束が見通せず、拡大防止のため引き続き学校でできる取り組みを実践していく必要がある。	【成果指標】 感染症予防のため職員が意識して指導・実践している。	感染症予防に対して意識して取り組んだ教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	・感染症予防に対する行動は、マスク着用・手洗い・黙食等意識して取り組むことができた。収束まで粘り強く続けていかねばならない。 ・「すこやかカード」は基本的生活習慣の定着を目指して行っているが、家庭によって差がある。抵抗力等を高めるためにも意識付けとして続けていきたい。
⑤安全管理	児童の情報モラル・セキュリティに対する意識を高め、ネットの適切な使い方を実践する。	・教科の指導や学活の時間等を含めた様々な学習場面で、児童自ら責任を持って、適切に情報を扱おうとする意識を高め、行動できるようにする。	生徒指導 主事	情報通信端末を端末とした児童同士のトラブルが見られるようになり、今後大きなトラブルに発展する可能性がある。そのため全ての児童が適切に情報通信端末を扱えるように児童の意識を高める必要がある。	【成果指標】 児童がネットに関する家庭でのルールを守っている。	「お家の人とのゲームのルールを守っている」と答えた児童の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1,2学期末に児童アンケートを実施する。	C	C	児童アンケートの中で「ルールを守っていない」または「ルールを決められていない」と回答する児童が15.3%みられた。外部講師を招いたり、道徳や学活などで学期に1回は児童にデジタルシティズンシップ教育を行ったりするなど取組を進める。また低学年のころから児童に指導を行うとともに保護者に対して啓発を行っていく。
⑥特別支援教育	特別な支援を必要とする児童について理解を深め、支援のしかたを検討し実践する。	児童の実態をつかみ、適時校内支援委員会を開いたり専門相談につなげたりしながら、より効果的な支援のしかたを検討、実践する。	特別支援教育 コーディネーター 教育相談担当	校内支援委員会でケース会議などを開き、専門相談につなげたり支援の方法を検討したりしている。それぞれのケースについて、さらに継続して支援の方法を探っていくことが必要である。	【努力目標】 支援委員会で、具体的な支援のしかたを決めて、実践しようとしている。	具体的な支援を行うことができたという教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	担任や保護者からの困り感や要望を聞き、専門相談につなげ、支援の方法を検討し、個に合った支援をしてきた。継続して、それぞれのケースについて、共通理解組織的に対応していきたい。
⑦組織運営・業務改善	業務の効率化を図るとともに、組織的に協働的に業務を行うことにより、働き方改革を進める。	業務改善の視点を取り入れ、各部会で企画・立案を行い、情報を共有しながら組織的に業務に当たる。時間外勤務時間が80時間を超える職員をゼロにする。	教頭	業務改善の意識は浸透してきていると考えられるが、常に各部会・全体会等で互いに確認し、組織的に業務を行うことで、さらに業務の効率化を推進する。	【努力目標】 各部会で業務改善の視点を意識し、業務の効率化を図るとともに、組織的に業務が行われている。	「業務改善に努め、時間外勤務時間の削減に努めている」と回答した教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B	C	平均時間外勤務は激減しているが、担当業務による偏りは見られる。コロナ感染が以前より落ち着き、行事等を再び行う際には、業務改善の視点を意識して企画・実行していく必要がある。
⑧研修	教員の情報活用能力を育成するための研修を実践する。	PC活用講習会を実施することを通して、日々の実践の交流やPCの使い方、PCを活用した授業の教材研究について教員が学ぶ機会を設け、実践を積み上げる。	教務主任 GIGA推進 リーダー	昨年度より、月に1度のPC活用講習会を設定した。PCの扱いには慣れてきているが、教科の特質に応じた活用や実践の機会を増やす必要がある。	【努力目標】 PC活用講習会等の校内研修を経て、教科の特質に応じた活用をし、実践しようとしている。	情報活用実践に努めることができたと答えた教職員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	C	B	・教員間でPC活用実践を共有しやすくする体制づくりや校内研修の在り方を考え、学校研究との両輪で実践に磨きをかけていく。 ・授業以外(委員会等)にも児童が効果的にPCを活用する機会を増やし、PCを使うことの良さについて教員、児童ともに理解を深めていく。
⑨保護者、地域との連携	学校の情報を提供したり、学習の中で保護者と連携する場を設け、開かれた学校を目指す。	学校便り、ホームページ、学級だより等を通して、学校の様子を積極的に発信する。国語科の成果物について保護者の感想をもらったり、授業を生かした家庭での取組を行ったりする場面を設定する。	教頭	コロナ禍の中で、保護者や地域の人材の学校行事・授業等への活用は難しい状況である。学習の中で、家庭と連携する取組を計画し実施していく必要がある。	【努力目標】 学習の中で、家庭との連携を意識した取組を行っている。	授業等で家庭と連携した取組を行ったと回答した教職員が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	C	C	保護者に学校での様子を知ってもらい理解を得るため、今後も家庭との連携を意識して進めていく必要がある。国語科での成果物に一言感想をもらう、学んだことを家の人に説明し連絡帳にその感想をもらう等、保護者を巻き込む工夫をしていかななくてはならない。
⑩教育環境整備	児童の安全安心のために、施設・設備の安全点検を実施して、改善する。	毎月15日、管理場所の安全点検を行い、不備な箇所については、速やかに修繕を行う。	教頭	毎月15日に、安全点検は行われており、不備な箇所の修繕もしているが、一部老朽化が進んでいる箇所もあり、児童の視点に立った安全点検を行っていく必要がある。	【努力目標】 危険防止の意識が高まり、施設の不備を未然に察知することで、改善に向けた努力を行っている。	児童の視点で、安全点検に取り組むことができた教職員が A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	A	今後とも児童の立場に立った、安全点検を行っていく。不備を見つけた際には、すぐに対処して、事故を未然に防ぐ。

学校関係者評価	・自分に自信がもてない若者が増えている。最後まで物事をやり遂げる経験を積ませたり、自分の考えを人前で表現する機会を工夫したりして自分に自信がもてるようにしてほしい。 ・ネットの正しい使い方やトラブルについて、低学年から指導していく必要がある。また、保護者への啓発も合わせて行っていかなければならない。 ・交通安全に関する指導と合わせて、自転車に乗る時のヘルメット着用についても努力義務ではあるが、機会を捉えて勤めていくとよい。 ・家庭学習の時間に課題が見られるので、宿題や自学を工夫してほしい。
---------	--